（1）　2023年（令和5年）3月31日　金曜日

発行所
株式会社 中外日報社
©中外日報社2023

中外日報

屋根や堂内の改修を終え寺観を一新した見性院の本堂

就任15年で本堂改修

檀家廃止の寺 曹洞宗見性院

節目迎え落慶法要

「檀家制度を廃止した寺」として知られる埼玉県熊谷市の曹洞宗見性院は21日、本堂改修落慶法要を厳修した。就任から15年を迎えた橋本英樹住職は「念願だった本堂の改修が終わり、一連の伽藍整備は一段落を迎えた。住職人生も、そろそろ折り返し。支えてくれた方々に少しでも恩返ししていきたい」と話した。

同院の僧侶・鈴木琉清氏が詠讃歌「聖号」を唱える中、橋本住職らが入堂。般若心経、大悲心陀羅尼を読誦した。新たな本堂は冷暖房を完備し、堂内にはステンドグラスを設けるなどして現代的なデザインに仕上げた。法要に合わせて先住忌・寺族忌法要が営まれ、先代住職らの遺徳を偲んだ。

橋本住職の親族の中谷元・元防衛大臣は「ご住職は仏教界の風雲児だ。時代の変化に合わせて改革に取り組んできた」と述べた。橋本住職の法話に触れ、「改めて仏教の平常心是道という言葉の大切さを知った。政治家になると、偉くなりたい、楽をしたいといった欲が出るものだが、ご住職の言葉を忘れないようにしたい」と話した。

見性院は2012年に檀家制度を廃止し、会員制度に改めた。

布施の金額の参考料金を明示し、葬儀の際には遺体の搬送や火葬場の手配を行うなど新しい寺院の在り方を模索し続けてきた。

（奥西極）